

患者の皆様の権利に関する宣言

当院では、患者の皆様の尊厳や人間性が尊重され、パートナーシップを強化し、以下の権利が守られることを宣言します。

1. 良質の医療を受ける権利
患者の皆様は、差別されることなく適切な医療を受ける権利を有します。
2. 選択の自由の権利
患者の皆様は、医師や病院或いは保健サービス施設を自由に選択し、変更することができます。また、いかなる段階においても別の医師の意見を求める権利を有します。
3. 自己決定権
患者の皆様は、自分自身に関わる自由な決定を行う権利を有し、それに必要な情報を得る権利を有します。
4. 意思に反する処置
患者の皆様は、意思に反する診断上の処置或いは治療は、原則的に行いません。
5. 情報に関する権利
患者の皆様は、医療上の自己の情報を得る権利を有します。また、知らされずにおく権利と自分に代わって自己の情報の提供を受ける人を選択する権利も有します。
6. 守秘に関する権利
診療の過程で得られた患者の皆様のご個人情報は、全て保護されます。
7. 尊厳を得る権利
患者の皆様は、いかなる状態にあっても人格的に扱われ、尊厳をもってその生を全うする権利を有します。

潤和会記念病院 院長 岩村 威志

記念病院 理念

「人間愛」

記念病院 基本方針

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療の提供
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践
3. チーム医療を推進し、より良い医療の希求
4. 豊かな人間性を備えた医療人の育成
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境

あとがき

「宮崎県のランキング」

卒業や入学、就職などで新生活を始められた方も多いのではないのでしょうか。

「新生活」で思い出すことと言えば、約二十年前大学進学を機に上京し、「宮崎県から来ました」と自己紹介をしたところ、「シーガイア」とあだ名がついたことです。「宮崎県」と言えばその当時「シーガイア」だったのでしょか…。

今回「あとがき」の担当になり、何を書こうか考えていましたが、宮崎で新生活を始めた方への紹介も併せて、ここで宮崎県のランキングを紹介しようと思います。

「都道府県別統計とランキングで見る県民性」というサイトを見てみると、農畜産農家数やピーマン生産量、きゅうり生産量、焼酎酒造場数、年間降水量や年間快晴日数などがランキング上位にあがっていました。意外なものでは「二十五歳以上バレーボール人口」や「天然記念物数」なども上位にあるようです。最近では「餃子消費量」で第三位となりニュースになっていました。

自然豊かでおいしいものがたくさんある、といったところでしょうか。宮崎で新生活を始める方には、ぜひとも宮崎を満喫いただければと思います。

新生活、潤和会記念病院も「患者支援室」など新しいことがスタートしました。今回の「潤」に紹介しています。ぜひごらんください。

潤

うるおい

2018年
4月1日発行

No.
72

一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団
潤和会記念病院
病院長 岩村 威志
〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地
TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558
<http://www.junwakai.com>

AI(Artificial Intelligence・人工知能) 時代の人間のあり方



潤和会記念病院 副院長(外科) 黒木 直哉

昨今、新聞、テレビ、ネット等で AI とゆう単語に接する機会が多くなっています。現在、近未来は AI の時代とよく言われます。AI について大雑把に調べてみると、1950 年代にコンピューターの研究者会合で提唱されたのが最初とされ時代と共に何度かブームがあったがその都度一時的で冷めてしまっていました。2010 年ごろからの AI ブームは、革命的とも言われる状況でディープラーニング(深層学習)が登場し質の良いビッグデータが揃い、かつ高速演算能力を持つコンピューターが身近になり本格的に発展してきました。教えなくても自己学習する事が実現したのがディープラーニングです。例えばゲームを何度もプレイして最初は弱いが回を追うごとに学習して強くなる事例です。

AI と言っても、SF の世界で描かれているような自分で考え行動ができ超人的な頭脳と身体能力を有するのは汎用 AI ですが、現在は限られた狭い領域のことに秀でた特化型 AI が主流です。音声認識、画像認識、自動運転する AI、囲碁や将棋でプロ選手に勝利する AI がこれに相当します。コンピューターは記憶容量や計算等の早さ等はとくに人間の頭脳を越えていたのですが、学習機能が備わった事である領域では一流な人間の頭脳をも越えてしまったのです。AI 研究者の究極の目標は汎用 AI の実現なのです。大きなビジネスチャンスとして有望な領域であるので、世界の IT 企業が開発に鏑を削っています。

さて、我々が関わる医療業界も AI が活躍する領域が徐々に拡大してきています。単純な事務作業やレシピチェックだけではなく、膨大な論文データを学習して人が診断に苦慮した病名を短時間で突き止めた事例が挙げられ、画像認識能力を備えた AI が皮膚がんを診断、X 線画像での異常所見をスクリーニングする等、病理組織診断の分野にも応用を広げようとする動きがあり AI ドクターと呼ばれるものです。音声認識力を高め介護ロボット、手術支援ロボットへの展開も進行しています。口頭で言った事を記録して、画像や血液データ等を入力すれば、専門領域外でも簡単に鑑別診断とその治療法の候補を挙げてアドバイスしてくれる AI 付き電子カルテなどは早期に実現しつつあるのではないかと思います。

高齢化が急速に進んで行く日本に於いて医療者不足が益々深刻になっていきます。医療に役立つ AI 開発が進展すれば高齢化社会の難題解決の切り札にきつとなるでしょう。

技術が進歩する速度は倍々のペースで加速しています。ある天才的科学家が近未来を予想して述べている内容は、AI を始めとするコンピューター技術だけではなく、生命科学、ロボット工学などが同時に倍々のペースで進化するとそのスピードが無敵大になります。そのポイントはある時点でそれまでの進歩の継続性を断ち切る様に突然起こります。それがシンギュラリティ(技術的特異点)と呼ばれる概念です。シンギュラリティの先には、人間の知性では予測不可能な世界が広がります。人間の創造した科学技術が、人間の手を離れて自らより優れた科学技術を創造する様になる…その学者は具体的に 2045 年と予想しています。荒唐無稽な妄想かもしれませんが、テクノロジーが倍々のペースで発展している事は確実です。天才的知性を持った人間でも予想不可能なのであれば、凡人の頭脳では到底予測不可能です。未来の AI が未知数であることに対し、人間を支配する様になると危機感を持ち規制の必要性を訴えている人もいます。

AI の発展は世の中に対しインパクトが大きい故に、悲観論として AI が人の仕事を奪い権力を手中にして人を支配するなど、楽観論として面倒な事、厄介な事は全部 AI が肩代りしてくれ雑用や苦役から開放されるなど、喧々諤々と意見が出ています。

仰々しい表題でしたが、浅学非才の凡人には AI 時代にどう立ち振る舞えば良いかは結局よく解りません。人間にしかできない、食べて飲んで、寝て、くだらないお喋り(主観的な意味で)をして、喜怒哀楽を粛々と感じていくしかないのでしょうか。AI は現時点では芸術など創造的な作業や論理的でない曖昧な判断は苦手です。個々の患者さんの治療の適応判断を所謂『さじ加減』的な判断はできず、創造力やコミュニケーション能力は人間が勝っています。大切なのは、人間を大事にしてくれる AI を切に望み、AI に詳しい悪意のない知人を見つけて自らの人間力を磨く事しかないのかなと思います。

最新機器のご紹介

放射線診断科

▼オランダ PHILIPS 社製 Ingenia3.0T



当院では、この度、MRI 装置の 1 台を PHILIPS (フィリップス) 社製の最新機器への更新を行いました。

MRI 検査とは強力な磁石でできたトンネルに入り、X 線を使わずに磁場と電波で CT のような断面を撮影する装置です。人体の様子を「たて」「よこ」「ななめ」とあらゆる方向から撮影することができます。CT と違い X 線を使用しないため被曝がありません。さらに、造影剤を用いず頭部の血管画像を描出できることに加え、人体の軟部組織や病変部とのコントラストを明瞭に描出することができるため人体にも優しい検査となっています。

これまで使用していた装置に比べると画質の向上、圧迫感の少なさなどメリットも増え、様々な検査が行えるようになりました。また、患者様が落ち着いた雰囲気で行えるように壁紙なども工夫しておりますのでリラックスした状態で検査をお受け下さい。

以下は今回導入された Ingenia3.0T の主な特徴 3 つです。

01 画質向上 ▶

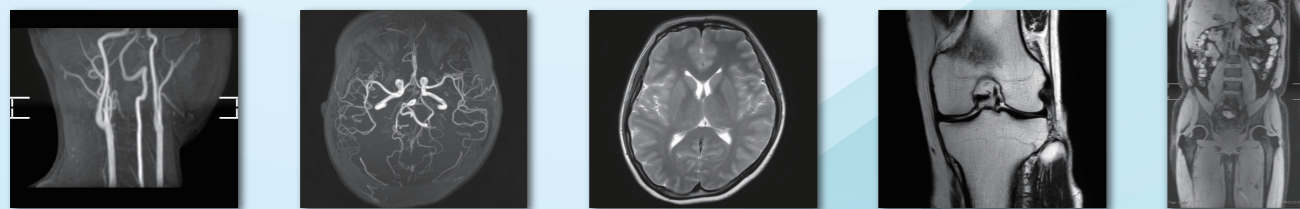
従来の MRI 装置と比べ、患者様に最も近い場所で MR 信号をアナログからデジタルに変換することができます。これによりアナログ信号経路でのノイズが除去され、よりきれいな画質を提供できるようになりました。

02 ワイドボア (70mm) ▶

従来の MRI 装置では患者様に寝ていただくトンネルの直径が 60cm でしたが、今回導入された MRI 装置は直径 70cm と広がっています。患者様に優しい設計となっており、非常にゆったりとした空間で検査を受けていただけるようになっています。

03 高性能ソフト ▶

動きの補正や、多種類の撮影が可能となり検査の幅がより増えました。



この他にも、今回導入された装置には、これまでにはない優れた機能や性能が満載の装置となっており、これまで以上に患者様の皆様へより質の高い医療を提供できるものと思います。検査・装置に関して詳しくお知りになりたい方は、お近くの医師・放射線技師へお気軽にお尋ねください。



患者支援室開設について



この度、地域連携室と医療相談室を統合し「患者支援室」を開設いたしました。

患者支援室では、患者さんの在宅生活を支援されているスタッフの方々と連携を図りながら円滑な在宅復帰を目指します。

また当院は高度急性期から在宅療養までを結ぶ要として、居住系介護施設等に入所されている方の急性疾患発症時の受け入れも積極的におこないます。さらに患者さんの在宅生活を支えるかかりつけ医の後方支援の機能を担っていく所存です。

地域包括ケアシステムが構築される中で、これまでの「病院完結型医療」から「地域完結型医療・介護」の流れを作ることが必要とされています。「地域完結型医療・介護」の実現には、医療機関と地域の福祉専門職との連携は不可欠であり、医療と介護が統合されたレベルでの連携が求められます。地域の患者さんに切れ目のない医療を提供できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

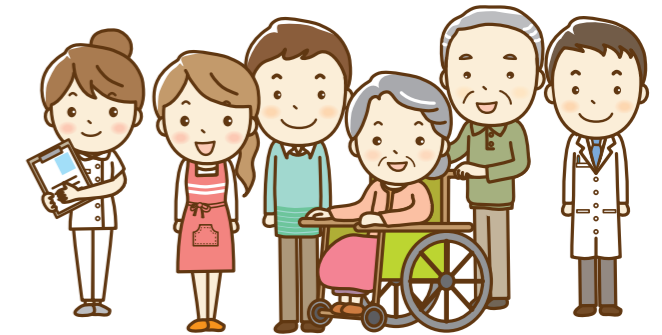
患者支援室室長：濱川 俊朗

救急外来

脳梗塞疑いの患者さんを紹介したい。
どうしたらいいの??

リハビリ

急性期加療は終了したけどリハビリが必要。
どうしたらいいの??



緩和ケア

緩和ケア病棟に患者さんを紹介したい。
どうしたらいいの??

その他

在宅の患者さんが肺炎で入院加療が必要。
患者さんを紹介したい。

潤和会記念病院では、地域の患者さんに当院の診療機能をご活用いただくこと、紹介患者さんの受け入れを円滑にすることを目的に、患者支援室にて入院・受診相談をお受けしております。

紹介の目的によりお受入れの流れが異なります。当院への紹介や転院に関することなど、ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。迅速丁寧な対応を心がけ、円滑な連携を図ります。

来室での相談は、十分な相談時間を確保するため事前にご連絡ください。面談のお約束をさせていただきます。相談内容に関しては守秘義務を厳守し、ご相談なされたことで患者さんに不利益にならぬよう配慮いたします。

【問い合わせ先】

潤和会記念病院 患者支援室 TEL: 0985-47-5314 (直通)、FAX: 0985-47-5323 (直通)
受付時間: 8:30 ~ 17:30 (土日祝、年末年始を除く)

